

令和5年3月30日

北代縄文通信

第51号

— 令和4年度の北代縄文広場の主な活動 —

令和4年7月15日から、土器づくりなどの体験学習の人数を制限して再開しました。また、縄文館の入館者制限も7人から15人へ緩和しました。

令和5年3月13日には、マスク着用が緩和されたことから、縄文館や復元建物への入館者の制限をやめ、縄文館内での解説を再開しました。

ミニ企画展「栗山コレクションの土偶・土製品」を開催（7/12～1/22）

栗山コレクションとは、栗山邦二（1903～85）さんが富山・石川・岐阜県の各地を歩いて採取した土器や石器などのことで、富山県の考古学研究において大変貴重な資料です。

総数は7,945点を数え、現在は富山市考古資料館に収蔵・保管されています。今回はその中から縄文時代の土偶や土製品を40点展示しました。



展示状況

内訳は、土偶22点、ミニチュア土器10点、三角とう形土製品3点、土版5点を紹介しました。中でも、ミニチュア土器は超小型の土器で、通常の大サイズの土器と同様に精巧な文様を描いたものもあれば、無文のものもあります。用途としては、祭祀に使用した説、子どものおもちゃ説などがあります。栗山コレクションでは深鉢型の器形が多いようです。

ミニ企画展「大石棒展」を開催中（1/24～）

石棒とは、縄文時代の磨製石器の一種で、断面の形が円形もしくは楕円形で、両端または一端をコブ状に加工した長い棒状の石製品です。用途は、祭祀に使われたと考えられています。

今回は、石棒の長さよりも最大幅に注目して、富山市内で出土・採取した縄文時代中期（5,000～4,000年前）以降とされる幅10cm以上の大型石棒6点を展示しています。



展示状況

また、今まで不明であった 4 点の石棒の石材が富山市科学博物館の協力によって判明し、これらの石棒は、凝灰岩・凝灰質砂岩という軟質で加工しやすい石材で作られていることがわかりました。

🍷 社会に学ぶ「14歳の挑戦」縄文広場で職場体験

「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」が3年ぶりに実施され、速星中学校の生徒3人が、令和4年7月6日に体験活動を行いました。

生徒たちは体験学習の準備や、土器づくりの粘土を練る活動を行いました。

生徒達は初めて行う作業に戸惑っていましたが、慣れるにしたがい、仕事の達成感を感じていたようです。



作業体験のようす

🍷 北代縄文考古楽講座「北代遺跡と呉羽の縄文ムラ」開催

令和4年9月3日には、(公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課の町田賢一さんを講師に迎え、「北代遺跡と呉羽の縄文ムラ」をテーマに講演していただきました。

町田さんは、小竹貝塚などの縄文集落の発掘調査の実績が豊富で、海岸沿いにある集落と丘陵にある遺跡との比較や、北代遺跡の特色について触れていただきました。



北代縄文考古楽講座

🍷 ひさしぶりのマスコミ取材

令和5年3月2日には、北日本放送の取材がありました。

取材では、出演者が縄文時代の衣装を身に着け、縄文館の展示や復元建物を見学し、体験学習に挑戦しました。

火起こし体験では、思ったより早く煙が上がリ、出演者の皆さんは驚いていました。

土器づくり体験では、オブジェのような作品をつくりあげていました。



火起こし体験のようす

北代縄文広場では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手指の消毒や、混雑時や体験学習の際のマスク着用、適切な距離をあけての見学に、ご協力をお願いいたします